

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野(1/10)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
さがみロボット産業特区(神奈川県)	4.5	4.8 進捗度 ・生活支援ロボットを体験する取組に参加した人数 757% ・生活支援ロボットの導入施設数 208% ・実証実験等の実施件数 143% 等	3.8 規制の特例等 ・医療機器製造販売承認等の手続の円滑化(薬事法) 等 財政支援等 ・高度先端型技術実装促進事業 地域独自の取組 ・「セレクト神奈川100」等による企業誘致の促進 等	4.6	<p>・平成30年度から開始した新たな評価指標では、「生活支援ロボットの実用化や普及を通じた地域の安心・安全」という目標の達成を目指し、各段階において的確で具体的な指標が設定されている。</p> <p>・ロボットに関する開発企業の参入、実証実験、製品化、施設への導入、一般の人々も含めた認知で着実な成果を上げている。全体として進捗状況、成果の達成状況が良好なほか、県や地域独自の積極的な取組、支援がなされている点が高く評価できる。</p> <p>・産業特区としての成果が国民の生活・健康改善に及ぶ効果を示す評価目標を設定することを期待する。生活の中でロボットが役立っていることが重要であるが、ロボットが導入されても使われていないケースもあるため、ロボットの導入施設数に加えて、活用度や人件費削減、利用者のQOLなどの効果の指数を検討するとよい。</p> <p>・企業誘致という点では課題が残っている。</p>